

News Letter vol.22 2011.9.22

国際脂質生化学会 (ICBL) に参加して

派遣国名: ポーランド

派遣期間: 2011.8.29~2011.9.4

学会名: 52nd International Conference on the Bioscience of Lipids

平成 23 年 8 月 29 日から 9 月 4 日まで、ワルシャワ (ポーランド) で開催された 52nd International Conference on the Bioscience of Lipids (国際脂質生化学会) に参加しました。ワルシャワは第二次世界大戦で人や街の多くを失った悲しい歴史を持っています。ですが、戦後、ひびの一つ一つに至るまでも忠実に再現され、現在のような美しい街並みを築いているのだそうです。そんな歴史ある街にあるワルシャワ大学で、本学会は開催されました。

脂質研究はタンパク質や核酸に比べて研究人口も少ないため、世界中の脂質研究者が集う本学会は非常に中身の濃いものでした。生物学、物理学、化学などあらゆる分野から脂質に対するアプローチが行われており、自分の研究とはあまり関連のない内容でも応用できそうな点など非常に学ぶことが多くありました。私の研究はラビリンチュラという海洋微生物を用い、高度不飽和脂肪酸を含むリン脂質がどのように合成されているのか解明することを目的としています。リン脂質は膜を構成する脂質として非常に重要な役割を担っています。それらの物理的性質やそれによって制御される膜構造とシグナル伝達との関連など、これから自分の研究を発展させる方向性を考え出すという点においても、今回の学会では多くのヒントを得ることができました。ただ、発表を通して、ラビリンチュラという生物があまり広く知られていないことを改めて実感し、自身の研究や当研究室の成果によってより広く周知される存在にしなければという新たな目標もできました。

もうひとつ、今回の学会で感じたのはプレゼンテーションスキルの重要性です。語学力もさることながら、身振り手振りで伝わり方が大きく違うように思えました。海外の研究者の発表

は自分の研究を誇らしく、そして興味を抱かせるような話し方で、日本の学会で見る発表スタイルとの差が非常に印象深かったです。なかなかまねできるものではないかもしれませんが、今後の発表において参考にしようと思いました。今回はポスター発表でしたが、いつか必ず国際学会での口頭発表にチャレンジします。

今回、このような貴重な体験を支援してくださいました、先生方や本派遣事業のスタッフの皆様には厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。



会場となった Old Library of the University of Warsaw



歴史あるワルシャワの町並み